

大学の先生による出張講義が開かれました！！

7月1日（金）に県内外の大学から7名の先生をお招きし、大学の講義をしていただきました。皆さんの感想文からは、大学の講義の雰囲気を味わいつつ、学問の多様性に気づき、自分の進路についてより深く考えたことが読み取れます。感想文をピックアップしましたので、仲間の感想を読んで、さらに自分の考えを深めてみよう。

「GFPで光るトランジェニックフィッシュの作り方と利用」 東北大学農学部 教授 鈴木 徹 先生



やはり大学は凄いことをやっているなと思いました。GFP 遺伝子、発現ベクター、モルフォリなど難しい単語がたくさん出てきて、頭がこんがらかって理解するのが大変でした。しかし、生物というのは、人間へ文化発達のヒントをくれるということがわかりました。人間は動物を研究し、自分たちに害を与える動物への道具を作ったり、痛くない注射などの医療品を作ったり、遺伝子を組み換えておいしく大量に増える固体を作ったりと、人間は動物から生きる技術を教えてもらっているのだと思いました。

これまでの私は、1つに絞った進路しかありませんでしたが、これからはもっと他の進路も調べていきたいと思いました。

「動物の形作りの設計図」 東京工業大学大学院 生命理工学研究科 准教授 田中 幹子 先生

先生の講義を聞いて、自分の体ができたのが、すごく不思議に感じたし、凄いとと思った。いろいろなタンパクの関係や役割があって、それが少しずれただけでも最終的な体の形には大きな影響があることがわかったし、繊細さも感じた。どこかの民族全員が6本の指をしていたが、それは進化できていないのか進化しているのか疑問に思った。

今回の話は自分がほとんど知らなかった世界の話で、とても面白かった。自分はまだ知らないことだらけで、これからもたくさん分野を調べたりして、自分の世界というか、選択の幅を広げて、その中で自分が本当にやりたいことを見つけられたらいいと思った。



「おはなし—電気通信の世界—」 電気通信大学大学院 情報・通信

工学専攻 准教授 矢加部 利幸 先生



一番印象に残っているのは、最後に先生が言っていた「みんなが知らないようなことを研究することが楽しい」ということです。私もそういうふうになることができる仕事に就きたいなと思いました。最先端の科学技術を研究・開発し、世界中で役に立つようなものを作ることは大変で苦労することだけけれど、それぐらい価値のあることもわかりました。

先生の話聞いて、電気通信工学に興味をもつことができました。数学と物理をしっかり勉強しないとイケないと思うので、今のうちから勉強するように頑張りたいと思います。今日のおはなしで聞いたことを、これからの大学選びや学部・学科選びなどに役立てていこうと思います。

「コミュニケーションを考える」 山形大学 医学部看護学科 教授 横山 浩之 先生



前回の大学出張講義でも学んだコミュニケーションやチームワークの大切さを改めて感じることができました。それと同時に、作業しているときに自分のコミュニケーション力の低さを痛感しました。患者さんと接するときだけではなく、人と接するときにも必要なことであるハキハキすることや人の目を見て話すなど、自分には意識しないといけないことばかりなので、私に看護師という職業が向いているのか不安になりました。

これからは、自分のコミュニケーション力の低さを少しでも改善できるように、初対面の人と話すときにも目を見て話したり、相手が話題を提示してくれるのを待っているのではなく自分から話題を提示したり、できることから実践していきたいです。

「友達関係の社会学」 宮城教育大学 社会科教育講座 教授 菅野 仁 先生

人とコミュニケーションをとったり、つながりをもったりするのは、普段何気なくやっていることだけど、本当は意外と難しいことだったのだなと感じました。うまくいかないときは距離を取ってみるというように、そんな解決法もあるのだなと改めて気づいたことがたくさんありました。人が他人とのつながりを求めるのはやはり一人だけでは生きていけないからだだと思います。だからこそ、そのつながりを大事にしなければならないのと同時に、つながりに依存しすぎないようにするのも大事だと感じました。

私たちはまだ基礎的な事項を学ぶ段階にあるけれど、教科書に書いてあることだけでなく、視野を広げて、周りの人から学べることをどんどん吸収していきたいです。



「地域資源とまちづくり—大学ではどう考えるか—」 山形大学人文学部 准教授 下平 裕之 先生

普段は考えないけれど、市街地が衰退するのには理由があることを知った。車で買い物に行きたい、駐車場は広くて安いところがいいとか、何気なく考えていることが積み重なって郊外に人々が集中しているのだと思った。しかしそれでは市内がどんどん衰退してしまうから、それを防ぐためにまちづくりはあると思った。たくさんの地域がどんどん個性を出して活性化すれば、日本全体が盛り上がり、文化としてどんどん定着していくと思う。日本でまちづくりがもっと勢いづけばいいなと思った。

大学では自分で考える授業がほとんどだから、普段からそれを意識して生活しようと思った。また専門的なことを学ぶため、自分の興味のあることを早く見つけていきたい。



「言葉を学ぶおもしろさ」 東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授 降幡 正志 先生



「ことば」って深いと感じた。「ことば」という意味は広く、私が生きていくうえで、きちんと理解していけるのか、少し不安になった。英語には英語の理論、日本には日本の理論があり、それぞれの言語にはそれぞれの理論がある。私は今英語を勉強しているが、日本の理論にとらわれてしまって英語の文法やコミュニケーションを素直に受取できないという悩みがある。それぞれ別に考えなければならないのだ。

これからは、言語だけを学んでいくのではなく、その言語の国の文化や、自国との関わりなどをからめて勉強していきたい。そうすればもっと意欲をもって、臨んでいけると思う。私は、ビジネス英語を学びたいので、自分の習慣や文化を押しつけるのではなく、相手の国の文化や習慣を素直に受け入れることが大切だと思う。